

ITビジネスモデル委員会報告 その6

Pivotal ジャパン プレゼンテーション

「ビッグデータとEMC／VMWare／Pivotal
フェデレーション戦略」

講師 Pivotalジャパン株式会社 取締役会長 徳末哲一様

2015. 3. 9(月) ソフトバンクC&S 20Fセミナールームにて

プレゼン内容のポイント

1. 今回はPivotalジャパンの徳末様より、お話を頂いた。

「ビッグデータとEMC／VMWare／Pivotal フェデレーション戦略」

- ・Pivotal 会社概要
- ・EMCグループ戦略
- ・Pivotal 主要製品ポートフォリオ
- ・GEとのビッグデータ情報分析の戦略提携
- ・次世代アプリケーション開発支援・アジャイル開発・データサイエンスが主たる業務
500名のアジャイル開発者と50名のデータサイエンティストを擁する
- ・ビッグデータ

2010年にデジタルコンテンツは1ZB、そのうちの80%は費構造データ

2020年には情報量は2010年の40倍の予測

人の一生のライフログは3TB

CVC(ConsumerValueChain)のキーとなるパラメーター

O2O、構造化⇔非構造化、ソーシャル &/or M2M、ioH &/or ioT

クラウド上のバーチャルデータから個人の行動予測プロフィールを作成

企業の要求に応じてイベントやキャンペーン等を個人に案内

これまでの<リアル: 森羅万象の世界>から、センサー、SNSデータ等が
シャドーとして蓄積され分析され<ヴァーチャル: BigData>、このシャドーが
リアルに影響を与えていく世の中に...

2. 質疑およびディスカッション

Q: Pivotalのアドバンテージは何でしょうか

A: 第3世代のプラットフォームから始めているため、従来のしがらみに縛られない効率の良い開発やコンサルが出来る

Q: 日本の企業はコンサルから始めないと、ユーザーが理解しついでこられないが、御社の場合はどうか

A: 米奥の企業は、はじめからユーザーが問題意識を持って相談してくるので、ユーザーと一緒に検討して問題解決が図れる

米国ではデータサイエンティストの給与が高く、こちらを目指す人も多い
(日本にはデータサイエンスを学ぶ場がまだ無いか少ないと思われる)

その後の委員会でのディスカッション

- ・ビッグデータを直接的にビジネスに繋げる道筋がよく見えない

感想1

EMCグループのビックデータに関する事業戦略の理解を今回は深める事ができました。IDCが語る2ndから3rdプラットフォームへの移行に際しては、1stから2ndの時と異なり、ビックデータを取り扱うがゆえに必要な技術者及びデータサイエンティスト等の人材。またターゲットとなるマーケットも拡大するという事を踏まえ、Pivotal社を設立した話は非常に理解する事ができました。

また、アメリカの事例でビックデータの取り扱いに長けた企業が大きなビジネスチャンスを生むということは、今後のビジネスモデルを検討する為に、非常に参考になりました。

日本ではビックデータに関して、構造化データに関しては我々また顧客でも活用を検討している企業も多いが、SNS等から収集される非構造化データの活用までアメリカは検討し、ビジネス化を進めているところはアメリカの先進性を感じる事ができました。ビックデータの活用を顧客に提案するにはコンサルティングが必須である点は理解していたが、非構造化データを取り扱う為にはデータサイエンティストによる分析がなければ、活用は困難であると感じましたが、逆にデータサイエンティストによる分析が進めば、大きなビジネスチャンスがあると感じたセミナーでした

感想2

冒頭、EMC、VMware、GE連合／連携にて事業戦略を持ち「クラウド」だけを意識した世代に対するアプローチを行っているとの紹介があった。また、構造化、非構造化のデータを「データレイク」と位置付けデータの流れ、湖という表現をしていることにその規模感を感じさせられた。

これら「クラウド」「データレイク」、そして次世代アプリケーションとしての「アジャイル」を支えるPaaS基盤として「Pivotal Cloud Foundry」を設立し、開発から本番環境、どのようなデバイスにもこだわらない業界標準基盤を構築している。

プレゼンではクラウド環境から生まれるビックデータの考察やその価値や活用方法、今後の方向性等を解いてくれた。私としてはその中から、以下の3つに関して自らのビジネスの方向性へのポイントと感じた。

- ・自社で持っているデータの活用

GEでのビックデータ活用と同様に、当社でも多くの障害データ、修理データや顧客データ等を持っているが、社内的には膨大なデータを生かし切れていない。プレゼンの中でもあった「データサイエンス」を駆使し、仮説から分析のモデル化を加速させる必要を感じた。

- ・Big Dataとはいえ選択と集中が必要

上記項目にも関連するが、Big Dataというボリューム感におされるのではなく、構造化データだけではなく、非構造化データもどのように活用するか、矛盾はするが非構造化データもどのように整理するかというアイデアや仮説が重要なのだと感じた。

このアイデアや仮説が既設概念を飛び越える必要があり、この発想をさせることができる「オタク」的な人材が必要となるのであろう。

・セキュリティ管理からアイデンティティ管理

人の人生全て「ライフログ」が蓄えられる時代となり、やはり心配なのはセキュリティである。単純に考えれば「個人情報管理」や「情報漏えい管理」であるが、プレゼン最後にもあったように、個人のアイデンティティがどのように管理されていくのか、今後「番号法」も進み「マイナンバー」による「管理」に包まれる世の中になってくる。デジタルの世界で個人がどのように管理されるのか、これをビジネスとしてどのように組み立てれば良いのか、今回のプレゼンでは多くの課題をいただいた。

編集後記

今回は、ソフトバンクC&S社様のご紹介で、Pivotalジャパンの徳末様のBigDataに関するお話をお聞きしたが、膨大なデータをどのように活用するかは、非構造化データも含む大量のデータを、目的に合わせて、どのように集め、分析し、実際のビジネスに反映するかが重要です。そのための専門家としてデータサイエンティストが、注目されつつあります。日本ではデータサイエンティストの育成がまだまだであり、その存在意義も米国の様にきちんと評価されていないのが現状のようです。今後益々増えるであろうBigData解析の需要に追いつくために、データサイエンティストの育成が急務であると感じたセミナーでした。

尚、本プレゼンの資料は 下記URLからダウンロード出来ます(会員限定)

<https://www.jcssa.or.jp/memberJCSSA/dl2.php>

以上